

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 せいわのわ 清和幼稚園みどりの丘

1. 本園の教育目標

- 人として自立した生活を営むために、生活リズムと基本的な生活習慣を身につける
- 体を目一杯使って活動することを通して、体力や気力を養う
- 他人の気持ちや考えを大切にすることや態度を養う
- 日本の伝統的な作法の基礎を学ぶ
- 他の生物の命を頂くことによって、自分の命が維持されていることに感謝する心を養う
- 他人とのよい関係を築いていくために、豊かな言葉を身につける
- 自然事象や美しいものに触れる中で、五感を磨く
- 美しいものや感動したものを表現しようとする意欲を養う

2. 本年度重点目標・計画

- 子どもたちと職員が主体的に様々な物事に関り取り組もうとする園を目指し、カリキュラム・マネジメントを見直します。
- エピソード記録会（保育カンファレンス）を通して職員の乳幼児教育における見方・考え方についての理解を深めていきます。
 - 子どもの発達に応じた週日案を作成します。
 - 保育現場における危機管理、安全管理計画について見直します。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況	評価
1	乳幼児教育における見方・考え方についての理解を深める。	職員が“遊ばせる”ではなく“遊びを通して学ぶ”という意識を持てるように8月頃より新しいカンファレンス用紙を用いて、エピソード記録会を行っている。エピソード記録会の中で保育カンファレンス（保育に関する記録を基に保育や子どもについて語り合うこと）を行い、学びのプロセスを促す5つの力（感じる・気付く力、うごく力、考える力、やりぬく力、人とか	B

		<p>かわる力) の見取りや環境構成及び援助の検討を重点的に行ってきた。その成果として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 職員同士の交流の場となっている ② 保育に自信が持てるようになった ③ 遊びに広がりが見られるようになった ④ 遊びをじっくり見ることで、環境構成の重要性を知り、実践することが出来た ⑤ 子どもの育ちを捉える視点が身についた <p>をあげることができる。引き続き職員の無理のない範囲内でこの取り組みを継続していきたい。</p>	
2	発達に応じた週日案の作成	<p>その週の主体的な子どもの姿を想像して週日案を作成していたが、今年度から今の子どもの主体的な姿や発達を踏まえた週日案に変更した。①前週の評価・反省⇒②前週の子どもの姿⇒③ねらい⇒④内容⇒⑤環境構成・援助を紐づけるため、カリキュラム・マネジメント研究者からアドバイスをいただき、紹介された文献などを参考にしながら書式の変更を行い、PDCA サイクルを回すことを意識出来るようにした。ねらいに対しての反省を書くことは出来ている職員が多いが、前週の子どもの姿からねらいを立てたり、必要な環境構成・援助を捉えることが難しい様子があるため、園長を交え添削をしたり、職員の思いを汲み取りながら一緒に文字を起こしたりしている。</p>	C
3	危機管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ① 昨今、南海トラフ地震についてのニュースに取り上げられているように、高知県は想定される震度、被害状況も大きいと予想される。来る災害に備え、災害対応体制の見直し、備え、訓練の見直しを行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・災害対応対策本部を設置し、園独自でのマニュアルの設定や、指示系統の見直しを行っている。 ・備蓄品の保管場所、保管方法を見直し、各クラスで管理ができるようにした。 ② 保育現場においてアレルギー誤食、事故、通園バスでの置き去り等が相次いでいる。園としても危機管理、事故防止に努めている。 <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児に対する対応についてのマニュアルの統一、情報共有をする。 	C

		<ul style="list-style-type: none"> ・熱性けいれん、脱臼等個別に配慮が必要な園児についての緊急個別対応表の作成、情報共有をする。 ・スクールバス置き去り防止に関して、マニュアル作成と管理体制の見直しを行う。 	
--	--	--	--

評価の基準（A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが、成果が十分でない D：取り組みが不十分である）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人差はあるが昨年度よりも子どもの育ちを見取る力がついてきたことで、保育に対する意識も高まり遊びにも広がりが見えるようになった。 ● 週案は取り組み途中のため、実践に繋がるようにしていく。 ● 安全管理については、月末に職員に確認を行い、情報の更新と共有を行っている。

5. 次に取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み内容
0歳児～5歳児への繋がりのある保育を行う	●エピソード記録や職員会を通して、0歳児～5歳児の育ちの繋がりを理解するとともに、子どもを見取る力等職員の資質向上を目指す。
週案の作成の質的向上	●子どもの主体的な姿から発達を捉えねらいに反映させていきたい。
地域との関わりの創出	●地域包括支援センターの方との連携を取り行事に参加をしてもらったり、一般の方も参加できるようなイベントを開催し、園のことを知ってもらう機会を作ったりしていく。

6.学校関係者の評価

【地域主任民生委員】

乳児クラスでも座って待機が出来ていたり、手洗いはきちんと並んで順番を待つことが出来ていると思います。それが日々の生活の習慣に繋がっているなど感じました。

室内遊びでは、椅子に座って遊び、落ち着いて一つ一つ取り組むことが出来ているなど感じました。特に折り紙では、手先を使っての作業（手でちぎること）や、ブロックでは落ち着いて遊んでいるのが印象的でした。外遊びでは、ドッジボールをする中で「仲間によせて」と声を掛け合いながらルールを守って仲良く遊ぶことが出来ていました。

【高知市横内小学校 校長】

保育の中で遊びを自由に選べる環境があることで、子どもの主体性や協調性を学んでいくことに繋がると思います。

遊びの中で子どもの内面を見取ることが、子どもの気持ちや学びを広げるきっかけになります。先生の言葉掛けが子どもの心を動かすことに繋がります。子どもの気持ちをどうやって広げていくかがポイントになり、職員の力が求められると思いますよ。

【学校法人 森本学園 理事長】

評価項目において、高い評価をせず、取り組み状況をしっかり厳しく見極めていると思います。

週案については、その日その日の反省で記入するのが、日々の保育の振り返りを深められるのではないのでしょうか。現状をしっかり見据えて、今後の教育、保育の資質向上に努めてもらいたい。

【会社経営者】

空間の広さを生かして、道具や心など整理されていたことで、子どもの落ち着きに繋がっているなど感じました。

アレルギー児の個別対応シートがあることで、誰が見ても分かりやすく、またきちんと共有出来ているなど感じました。

園庭が広く、道具も大事に使っており、クラスに戻る際には、きちんと片付けを自発的におこなっている様子が見られました。

節分の歌を歌う際にもお腹から声が出ていて体力・気力を養っていることに繋がっているなど感じました。

学年が違うクラスの子どもが混ざって園庭で遊んでいるのが清和幼稚園の良い文化が受け継がれていて良いなど感じました。

【国立大学法人 岡山大学 准教授】

先生方が子どもに寄り添おうと意識されている点が良かったと思います。

子どもの発達の流れを理解しつつ、子どもをよく見つつ、寄り添おうとすることを積み重ねていけば、さらに良い保育になっていくのではないのかと期待しています。